



大切にしたい「書く」こと

校長

時々、教室を訪れて、作文を書く授業をさせてもらいます。

子どもたちが、自分や自分の周りの人やもののことについて書いた作文を読むのは、とても楽しく、私にとって幸せな時間です。

どの子の作品も、生き生きとして輝いています。「作文を書くことが好き！」という子はおそらく少数派ではあると思いますが、子どもたちは「書き方が分かる」「書きたいことがある」、この2つがあれば、何とか書き始めます。「書くこと」は「考えること」であり、「自分と対話すること」であると思います。大切にしたい時間です。

子どもたちの素敵な作文を、自分で楽しむのはもったいないとの思いから、まとめて新聞に投稿をしています。ときどき、中日新聞等に掲載されています。（9月28日現在、今年度、延べ57名の作品が掲載されました。）ぜひお読みいただき、今後もハツ田っ子を応援いただければ幸いです。これまでに中日新聞に掲載された作品の中から一部をご紹介します。



【作品が載った日の新聞を、

南北の昇降口に掲示しています。】



でも実さいにはドラえもんはなくて、空そです。そこで、本当に便利なものはないのだと知ります。いつもドラえもんがいるのび太のことを、うらやましく思います。

もし本当にドラえもんがいたら、今ごろどんな生活をしていたでしょう。そう考えるとわくわくします。

自分の中だけの特別なドラえもんを作っていると、楽しいことだけ考えられます。あー、自分が想像して作ったドラえもんが本当にいてくれたらなあ。

私が宿題がいやだなと思つたら、道具を出してくれます。歩くのがめんどうだと思えば、どこでもドアを出してれます。空を飛びたいと思えば、タケコブターを出してくれます。

でも実さいにはドラえもんはなくて、空そです。そこで、本当に便利なものはないのだと知ります。いつもドラえもんがいるのび太のことを、うらやましく思います。

「ドラえもんがいたらな

私の心の中には、いつもドラえもんがいます。そして、私のことを見ていてくれます。



「最高学年の自覚見せる」

今がんばっていることは、最高学年として低学年やほかの学年のお手本になることです。そのため、通学班にいる一年生がこまつっていたり、何もできない

いできたりしたら、やさしく助けあげるようにしています。地区だん会の時には一年生をつれて行きました。なかなかついてきてくれなくてこまつてしましましたが、やさしく言うことが大切だとわかりました。

家庭科の教科書を見ると、ミシンや料理などがつっていました。その中で一番気になったのが料理です。ぼくはときどき、家で料理のお手伝いをします。ちょっと練習してみようと思います。家庭科の勉強が楽しみです。

一年生ではなく、ほかの学年のお手本になるためにがんばっていることもあります。高学年らしいしんけんな姿を見せることができます。高学年らしさをみると、見た人が自然になってしまふと、思つからです。いろんな場面でしんけんに取り組む姿を見せたいと思います。

これからも高学年らしい姿ややさしく助けることを続けていきたいです。そして、みんなのお手本になりたいです。

- ・苦手でも育つてほしい
- ・家中でかくれが作る
- ・天空のプールにうかぶ
白イルカ
- ・給食でいちばん好きな
ミルマーク
- ・まよたしくいたへん
- ひみつでね

川柳



「家庭科これから楽しみ」

今年から、学校で家庭科が始まりました。最初の授業では、お茶を飲みました。